



秋冬ブロッコリー

やさいの里営農センター
営農指導員 宇井 文英

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



秋冬ニンジン

山武経済センター
営農指導員 小関 和彦



の作型ごとに施肥設計を行います(表



施肥

施肥量は、早生種・中生種・晩生種の作型ごとに施肥設計を行います(表)



定植

若苗定植を励行しましょう。また、老化苗の定植は厳禁です。

定植の目安は、セル苗128穴で3〜4枚、育苗日数25〜30日、大苗5〜6枚、育苗日数30〜35日となります。



育苗

大苗育苗では、高さ1m程度の平畝に十分な散水をし、地温を下げてから播種します。発芽適温は25℃で、地温を下げるため黒寒冷紗を二重掛けにし、本葉2枚時で寒冷紗一重、本葉3枚で除去します。



品種選定

年内取りの品種としては、「おはよう」「サマードーム」等があります。年明け取りの品種として「おはよう」「ブランドドーム」等がありますが、「ブランドドーム」はアントシアンの生成に注意してください。



肥培管理

生育ステージに合わせた肥培管理が重要となります。



薬剤消毒

良質のニンジンを作る上では、完熟堆肥や緑肥の施用による土壌改良が必要となります。その反面、コガネムシ類の幼虫やネキリムシの発生が増える傾向にあるので、フォース粒剤(10kg当たり4〜12kg)やDC油剤(10kg当たり20kg)で防除してください。例年、ヤケ、しみ、アザの発生しやすい圃場では、しみ腐れ病に高い効果を発揮するユニフォーム粒剤を10kg当たり18kg全面土壌混和すると、品質向上が望めます(写真①参照)。



圃場準備

JA山武郡市では、秋冬ニンジンの「ちばエゴ栽培」に取り組んでいます。



写真② ホウ素欠乏症

花蕾内部に空洞が発生する症状です。気温が高い、追肥等の多施用による窒素過剰が主な要因とされています。



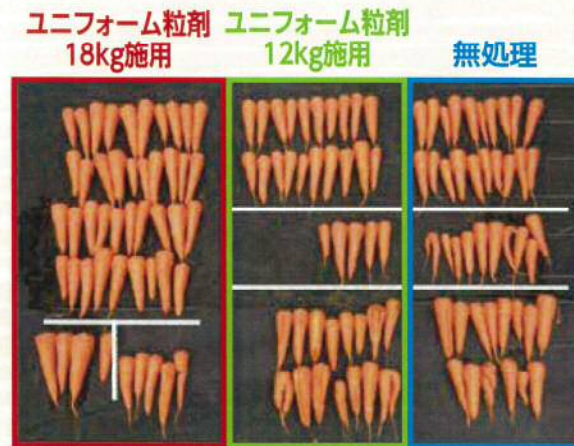
花径空洞症

花蕾内部に空洞が発生する症状です。気温が高い、追肥等の多施用による窒素過剰が主な要因とされています。



主な生理障害

中早生〜晩生種は、早生種よりも元肥を2割ほど減らし、追肥の回数と量を増やしましょう。



写真① ユニフォーム粒剤の施用試験結果(例)

①発芽〜本葉3葉期前後の初期生育期(播種〜20日前後)は、発芽の安定と生育のそろった根茎を確保するため、播種前後の圃場の水分確保(乾燥防止など)が重要なポイントとなります。②本葉4〜7葉期の根形形成期(30〜50日前後)は、根部の肥大・充実に備える重要な時期で、最も水分と肥料を必要とする時期となります。③本葉8葉期以降の肥大充実期(70〜100日前後)は、地上部(茎葉)が過繁茂にならないよう肥培管理を行

4月の分析経過について

合計6点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	春ナス……………1点
	ミツバ……………1点
	春ブロッコリー……1点
	サトイモ(ちばエゴ)……1点
	リーフレタス……………1点(インショップ)
キュウリ……………1点(インショップ)	

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数……………合計23点

表② 秋冬ブロッコリー施肥基準(早生種) [10a当たり]

元肥	肥料名	成分	施肥量	備考
	粒状セルカ	アルカリ分47%	120kg	
	マルチサポート2号	総合微量元素	60kg	
	苦土重焼燐	0-35-0	40kg	
	さんぶジシアン有機806	8-10-6	200kg	
追肥				
回数	肥料名	成分	施肥量	備考
1回目	さんぶジシアン有機806	8-10-6	30kg	定植10〜14日後に施用、中耕培土
2回目	さんぶジシアン有機806	8-10-6	30kg	花蕾確認後に施用、中耕培土

近年、8月下旬〜9月にかけて台風の影響や降雨が多く、黒葉枯病の発生要因となっています。圃場の排水対策も必要ですが、表①を参考に、適宜防除に努めてください。



病害虫防除

表① ニンジンの病害虫防除例

対象病害虫	使用時期	使用農薬	倍率	使用時期	使用回数
黒葉枯病	9月中〜下旬	ポリオキシシンAL水和剤	500倍	7日前まで	5回以内
黒葉枯病	10月上旬	カスミンボルドー	1000倍	14日前まで	2回以内
マメハモグリバエ	10月上旬	アフアーム乳剤	2000倍	前日まで	3回以内
黒葉枯病	10月中旬	ストロビーフロアブル	2000〜3000倍	7日前まで	3回以内

※降雨が多い場合は防除回数を増やしてください。



土寄せ

本葉5葉期前後の土寄せは、茎葉と根部の境界部分を保護することにより、「エゴボ」の発生を予防します。また、年明け以降に収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため、12月上旬までに土寄せを行います。